

東京の幼稚園展

(三三・二・八〜一三)

友松 あきみち

展覧会には少なくとも事前に一年の準備が必要であろうが、教育関係の場合はそれも期間が短いようだ。とくにデパートなどを会場にして一般人を対象に行なうためにはよほど慎重に計画が練られ、その線にそって綿密に資料の蒐集が行なわれておらぬとすぐに底が割れてしまう。平易に見せるということは必ずしも質を下げることを意味しない。かえって専門家を対象とするより素材に工夫もいるし、楽しい雰囲気会場内にも出し出すためには展示内容が充分に消化されておらねばならぬ。先ごろ銀座松屋で開かれた「たのしい幼稚園展」は各種催し物の多い東京でも近年出色のものといわれているが、そんな世評を勝ち得ただけに主催者側の苦勞も多かった。

この展覧会は東京都私立幼稚園協会の結

成二十年に当り、わが国幼稚園創設八十年の記念と併わせて企画されたもので、幼稚園教育の正しい在り方をひろく都内家庭層に認識して貰うことが第一の目的であった。一種のPR運動であるが、その意味で必ずしも対象は一般人のみとは限っていない、望ましい園の管理と保育内容についてわれわれの側においてもだいが耳の痛い展示があったはずである。私どものところでも、会を參觀した父兄から園に欠ける諸点を指摘されて赤面した一人である。開会前は「入園志望の減少した私立幼稚園の宣伝」ぐらいに推測していた報導関係も、会期の経つにしがたい、快よく協力を申し出られたのも、今回の展覧会の内容をよく物語ってくれている。予期以上に多数の入場者を見たことは、私立の緊密な組織が動員の基

礎をなしてはいるが、要は社会の関心に応えうる回答をこの展覧会がまがりなりにも備えていたことだと思ふ。

会場は長方形の百四十坪ほどのものであったが、ほぼ全景が一つの幼稚園として設定された。理想的な三十坪の保育室を中央に建て、その前後に前庭と運動場が用意され、それぞれの空閑壁面に資料や写真、園児の作品が展示されている。この思いきつた企画が、来会者を何らの説明なしに、場内の雰囲気ひき入れる大きな誘因となった。運動場の砂場や遊具を自由に使用して貰い、保育室内でも器物に触れることを厭わず、とくに子どもたちには教材を提供して気持のおもむくままに遊べる機会をつくったことも、会場を終始なごやかなものにしていくれていた。

この種の展覧会とはかく説明書きが多くて、懇切な図式がやたらと目につくものであるが、入場者の平均を中学二年(昔の高小卒)を修めたところに置いて、できるだけ写真や絵、実物を以てこれに代え、読むことより見る陳列方法の中に一貫して次の内容をもることにとめた。

一、幼稚園の歴史と現状。一、教育の内容。一、幼児の発達と幼稚園の役割。一

小学校と家庭との連絡。

他に幼稚園生活に取材した写真公募展と園児の作品展(絵画)が準備されていたが、これらが混然と一体となるところにこの会場の一応の陳列目標があるわけであった。それらがどのように処理されていたか、次に大要を経路にしたがって述べる。

入口付近

- ばらのアーチをはいると、幼稚園の父フレールについて業績が紹介され、わが国幼稚園の歴史にも触れている。
- 幼稚園の教育について教育要領の五目標をあげて、明治期の私立園の写真その他貴重な参考資料、書籍を展示した。
- 学校体系における幼稚園の位置を絵で示し、三歳児からの入園について説かれている。

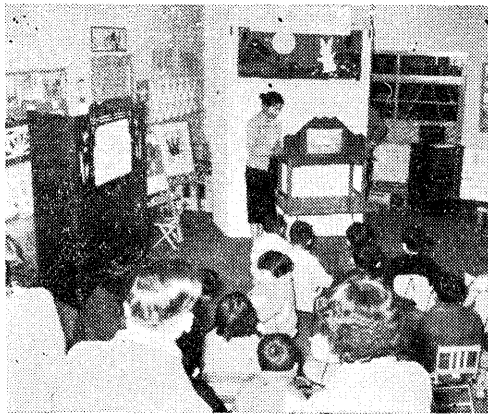
前庭

- 園舎の前に花壇をつくり、飼育小屋、滑り台、キャッスルジム、布製プール、園舎の小模型を置く。遊具には発達の段階によって幼児の使用できる程度、ならびに運動機能の助長に役立てる面を説明してある。
- 壁面には都内幼稚園の分布図(国公私立)と八十年間の發展史を図版に描いた。
- 実物と等尺の足洗場と水飲みをつくり、

砂場を付した壁面を幼児の共同製作になる運動場の絵で色どり、望ましい運動場の平面図を三点掲示している。他に、大正、昭和初期、戦時下の私立園生活の写真を展示。

保育室

○室内を中間色で配色。棚、個人用引き出



し、黒板、掲示板、晔、ピアノ、放送装置などを設備して教材遊具が適当に置かれている。机や椅子は新しい形式の鉄製。これらのものを自由に使用して絵なども描けるように教材を用意した。

○室の壁その他を幼児の製作品で裝飾。通路には大積木、スライドボード。ここでは毎日交替で、教員養成所の生徒による人形劇などの催しが行われていた。

○保育室から運動場を望む形で一方の壁面には上部をルーバーで飾り、園児の生活を記録した写真と絵によって幼稚園の一日を語っている。

- ①起床から登園まで……自分で着衣。幼児向の手洗い便所の設備。登園の服装。交通信号の見わけ方。
- ②登園してから……挨拶。靴のはきかえ、靴などの始末。正しい習慣をつくるための保育。
- ③保育のねらい……でき上りより、喜んで描いたり、作ったりすることの大切さを、二種の絵によって比較。各種の遊び、健康診断等の写真。
- ④おべんとう……備食を直すため努力している母親の例を示し、内容の良否を各種の実物展示でしらせている。
- ⑤遊びの中で……けんか、順番、告げ口について幼稚園での指導の實際を、三コマの続き絵に描いた。
- ⑥子どもたちが帰ってから……掃除、器具の点検。明日への準備として打合せ、

記録、家庭訪問、教材の買物、研究会。他に月案や週案、日案の一部を掲げた。

運動場

○他の催物場からの入口に噴水を設け、ジオラマ型式で年中行事の写真と絵。通路にはグロブジャンクル、太鼓橋、巧技台を置いて自由な使用にまかせていることは前庭と同じ。

○壁面には三歳から五歳までの幼児の発達を示して、数、言葉、生活習慣、画、遊び、運動機能についての絵による説明を行ない、棚を出して年齢にふさわしい玩具の陳列をする。

○幼稚園では一人ひとりをどのように導いているか、乱暴な子、泣き虫の子、友だち遊びのできない子、落ち着きのない子、偏食の子について、家庭における原因を絵で示して、その指導例をあげている。

○家庭と小学校が幼稚園に希望している事柄の相違を絵と写真で示し、図では「子どもらしい」「自分の意志の発表できる」「健康な」子どもをつくらうとしていると結論、両親の教育に対する理解と協力を求めた。

○写真展、作品展は以上の流れにそって適当に壁面、柱を使用して展示。

教員室 (兼保健室)

○一室をそれに当て、入口に身長・体重を簡単に計れるよう図版と計器を用意した。身長は年齢別に男女幼児の等身図を貼ったが、昭和三十年度の都内幼稚園児の標準を使用している。ここでは発育のおくれた幼児の父兄に対して親切な指導が必要であった。

○室内では毎日午後教育相談を受ける。相談の内容でとくにめだったことは、三年保育に関する質問の多かったことである。

○他に控室からは、テープに吹きこんだ幼児の歌や生活の記録を会場に流しており、定時には松屋全館に放送された。

以上、かいつまんで展覧会の模様について述べたが、欠けていたものはやはり準備の不足ということである。理想の保育室とはいっても、新しく考えられた器具、あるいは望ましい設備について何ほどの示唆も与えることはできなかった。一年なり二年にわたって園生活の中で変っていく幼児の生長する過程を写真なり作品にとらえておくことができたなら、訴える力はさらに強かつたはずである。

だが、僅かの日数ではあったが一千枚に近い撮影を行なった写真にしても、実際に使用できたものは至って少数であった。こ

種の展示に要する費用の際限ないことを示す一例であるが、限られた日時と資金の中でこれだけの展覧会の行なえたことに今は満足すべきであるのかも知れない。計画されてからほぼ一年、顧みて多数の関係者の協力なくしては到底でき得なかったことを痛感する。

(筆者は神田寺幼稚園長)

